

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	ゴレーク地域の住民の間に、多くの病気は予防できるという意識が定着し、予防に必要な栄養・衛生改善策が実施される。 達成状況：大きな成果は2つある。一つは運営能力強化支援の一環で重ねてきたワークショップを経て、複数の保健委員会から小規模の保健プロジェクトの提案書が作成され、当事業の資金を活用して実施されたことである。もう一つは女性による家族健康アクショングループ(FHAG)に参加する読み書きができる女性たちが自主的な健康教育を企画・実施したことである。村人の側から保健に関する取り組みが計画・提案・実施される段階に進んだことで、上位目標に近づいた。一度きりの実施にとどまらず、フォローアップや、ニーズに合わせて定期的な取り組みを担保できるかが今後の課題となる。
(2) 事業内容	(ア) 保健委員会に焦点を置いた地域の自主的な保健の取り組み 【保健委員会の活動が地域に定着するための支援】 井戸の衛生管理(塩素消毒)は滞りなく行われ、月ごとの担当者も決められた。保健の小規模共用資料室の運営も続いているが図書数が限られていることもあり、利用者は増えていない。村の内外から本の寄贈を募る予定。フズバゲ村でも保健委員会との話し合いを経て保健の資料室を設置することが決まり、責任者やルールを定め、また具体的な運営についてはクズカシュコート村とも経験共有されることが合意された。しかし、これらの活動記録を取ることにには未だに課題が残る。また、住民への健康教育実施における地域保健員(CHW)との連携促進や委員会の実働部隊である青年ボランティアグループの結成にあたってグループへの研修などの支援を行った。 【保健委員会の運営能力強化の支援】 運営能力強化を目的としたワークショップを実施して、プロジェクトプロポーサルの書き方について学んだ。それらを経て、地域全体から合計10個の保健に関する小規模プロジェクト案が提出された。当団体との協議の上、必要性が最も高く、かつ実現可能なプロジェクトが選ばれ、実施に至った。共同トイレの建設、マラリア対策、保健の資料室設置など。 (イ) 地域における健康教育 【家族健康アクショングループ(女性グループ：FHAG)支援】 月次保健教室を計画通り開催した。高い出席率を維持しており、女性による保健の学び合いの定着は進んでいる。現在は当団体の女性職員が講師役を担っているが、将来的に村の女性達だけで活動を継続させるための議論も始まった。現在、既存のメンバーに加え、読み書きを習得した若い女性メンバーが加わり、世話役のCHWを補佐して活動記録も取っている。彼女たちが自主的に学校で健康教育を実施したことは目標を上回る成果と言える。 【男性住民への健康教育】 CHWが補佐した公衆衛生を主なテーマとした健康教育の実施は順調に進み、昨年度とあわせて地域内にあるすべての保健地区で実施されいずれも多く関心が集まった。別のテーマでの開催もすでに予定されている。 【学校での健康教育】 学校保健協議会による積極的な健康教育やキャンペーンが行われた。応急処置実習は、生徒だけでなく教員が自ら生徒に指導できるようTOT(Trainig of trainers)も実施。壁新聞活動は継続し、新たなブックレットも作成された。

	(ウ) 診療所運営と地域保健との連携 【診療所運営と地域保健との連携支援】 家族カルテを活用した診療や待合室での健康教育を行い、根本治療と病気予防の意識啓発に務めた。また、診療過多な患者の家庭を訪問し、状況改善のアドバイスを行った。ワクチン接種も滞り無く行った。 【診療所・簡易診療所の移管】 行政手続きに基づき、2016 年 12 月 31 日付で当団体から診療所と簡易診療所の移管を行い、翌日から運営主体がアフガニスタン現地 NGO の AADA に移った。
(3) 達成された成果	(ア) 保健委員会に焦点を置いた地域の自主的な保健の取り組み 成果①【保健委員会の活動が地域に定着する】 ●井戸管理活動では、地域内にある合計約 500 基の井戸（共同/私有）に定期的な塩素消毒が行われている。クズカシュコート村とゴレーク村の保健の資料室は人々に開かれているが、図書が少ないこともあり、利用者は増えていない。どちらの活動も大きな問題は見られていないが、保健委員会メンバーの識字率も低く、活動記録は適切に残されていない。そのため、当団体職員が彼らの独自の活動や資料室利用者の数などを把握するのが困難となっている。 ●地域保健員 (CHW) の月例会への保健委員会メンバーの参加、また保健委員会定例会への CHW の参加はあるが、散発的。男性住民への健康教育をヘルスポスト（保健地区）ごとに開催した際には保健委員会メンバーも参加し、開催を補佐し、CHW がボランティアで村人の保健室のような役割を担っていることを住民に説明し、地域を挙げての病気予防や公衆衛生の向上を呼びかけた。 ●保健委員会が結成された全ての地区で青年ボランティアグループが結成され、メンバーリストも作成された。現段階では、普段から活動しているわけではなく、病気予防キャンペーンなどで人手が必要な際に動いている。フズバグ・クズカシュコート・パンガオ村の青年ボランティアグループは特に積極的で、地域に貢献できることに喜びを感じているという声が多数聞かれた。 成果②【保健委員会の運営能力が強化される】 ●第 3 四半期にすべての既存の保健委員会を対象に 3 日間の研修を行った。当団体のプロジェクト計画を現地語に翻訳し、それを参考例として提示しながら、プロジェクト案作成や助成金申請の基礎的な研修を行った。これを経て、当事業の資金を活用して行う小規模の保健プロジェクト案を募ったところ、地域全体から合計 10 個の案が提出された。協議の上、必要性が最も高く、かつ実現可能なプロジェクトが選ばれ、実施に至った（写真報告参照） ●委員会間の交流もあり、保健資料室や青年ボランティアグループが、他の地域にも広がっている。第 4 四半期には、「応急処置」「栄養失調」「麻薬濫用（※近年、状況悪化が懸念されている）」をテーマとした健康教育を地域内で実施するための研修（企画・準備・実施について）を、保健省のトレーナーを講師に招いて行った。その結果、ゴレーク村では 3 つの保健委員会がそれぞれ自主的に健康教育セミナーを企画し、それぞれ 53 人・52 人・65 人の村人が参加した。 (イ) 地域における健康教育について 成果①【家族健康アクションがグループとして地域の病気予防に取り組む】 ●14 の拠点（残り 2 つは治安が悪く、活動が困難）に 15 人のメンバーの月次定例会への出席率は年間を通して 9 割程度を維持。昨年度より、世話役の CHW や講師役の当団体女性職員の補佐として文字の読み書きのできる若い女性たちが参加しているため活動開始時よりも人数は増えている。（コティ村とタラ

	ン村には読み書きができる女性の参加はまだない) 読み書きのできる参加者が入ったことで、村の女性たち自身によって初めて活動記録が残され、FHAG メンバーが家庭訪問で使用するチェックシートの確認を手伝った。 ●衛生環境のチェックや健康に関するアドバイスのため、複数メンバーによる合同の家庭訪問実施が毎月報告されている。今年度最大の成果は、クズカシュコート村で FHAG に参加している読み書きができる女性たちが自主的に、この保健教室で学んだことを女子学校の生徒たちに教えにいくという動きに繋がったことである。同村には 3 つの FHAG があり、それぞれに読み書きができる女性が 3 人・4 人・5 人いる。彼女たちが自ら学校側と調整し、「気管支炎」「麻薬濫用」「衛生」「破傷風」などをテーマとした健康教育を行った。 成果②【CHW の協力により男性住民が健康教育に参加する】 ●公衆衛生を主なテーマとした健康教育の実施は順調に進み、昨年度とあわせて地域内にある 16 すべての保健地区で行われた。各場所で想定を上回る 30～40 人の村人が集まった。さらに、保健地区がないゴレーク村でも、保健委員会の発意で男性住民への健康教育が実施され、関心を持つ多くの人々が参加した。村人に CHW の役割を理解してもらう機会ともなっている。 ●一方、CHW 自身が講師役となる事例はまだ少なく、多くの場合、当団体の職員が務めている。(CHW は補佐的な役割に留まっている) 成果③【学校保健協議会が校内で健康教育を企画・実行する】 ●学校保健協議会(SHC)が結成された学校で、それぞれ 2 回以上のキャンペーン(歯磨きと手洗い奨励)が企画・実施された。当団体とともに施したこれらキャンペーンのあとも、類似の取り組みを行ったという報告もあった。SHC の活動記録はノートにつけられている。生徒によるトイレの掃除(カチャラ男子校)、歯磨きキャンペーン(バルカシュコート女子校とカチャラ女子校)、教員による健康教育(コティタラン男子校)など、いずれの学校も独自に取り組んでいることが報告された。 ●SHC の活動記録ノートには生徒が怪我の手当をした事例の記録があり、これまで当団体が学校で行った応急手当実習が活かしていることが確認できた。 (ウ) 診療所の運営および地域保健との連携について 成果①【診療所運営と地域保健との連携が強化される】 ●当団体との情報共有や能力強化トレーニングのために保健委員会は 1～2 ヶ月に一度集まった。男性地域保健員は毎月、女性地域保健員は 2 ヶ月毎に集まり情報共有と薬の補充を行い、診療所の運営と地域との連携はスムーズに行われた。 成果②【診療所・簡易診療所の移管】 ●行政手続に則り、滞りなく移管が完了した(2016 年 12 月 31 日付)。
(4) 持続発展性	保健委員会間では経験交流がなされており、先行する委員会の取り組みは他の地域にも広がっている。例えば保健資料室や青年ボランティアグループは他の地域にも広がっている。また女性グループの中からも個々の活動でなく複数のメンバーの活動として自発的な健康教育の実施という実績が生まれた。自主グループである学校保健委員会としての活動も保健キャンペーンの実施などが見られるようになった。また、診療所は地域保健との連携を深めながら、診療所の運営を現地 NGO に移管することができた。保健委員会の数が増えた今、ある村の先行事例・グッド・プラクティスを他の村にも伝えていける基盤も生まれているので村々や諸グループ間(委員会・女性・学校など)の交流促進に引き続き努めていく必要がある。